

事務局・財政局・監事紹介



専務理事 尾形 翔平
 事務局長 遠藤 翼
 財政局長 岡 祐美
 直前理事長 情野 裕仁
 事務局・財政局次長
 中島 克也 渡邊 萌
 氏家 瞭
 事務局補佐
 渡邊 直樹 日下部 皐月
 廣野 隆 斎藤 なつみ
 監事
 渡邊 裕太 浅野 紘太

事業内容

1. とうろう流し花火大会の実施
2. わんぱく相撲の実施と引率
3. 報告書の作成
4. 総会・三役会・理事会等諸会議の設営及び運営・議事録作成の補助
5. 総会資料・会員名簿・出席点集計の業務
6. 渉外・賛助会員に関わる一切の業務
7. LOM運営に関する事項の一切、JC会館及び備品、各種文書の管理
8. 通信連絡関係・慶弔に関する事項
9. 京都会議引率
10. 理事長のセクレタリー
11. その他、理事会より付託された事項
12. 財政審査会議の開催
13. LOM財政の透明化並びに適正化の推進
14. 予算表並びに財務諸表の作成
15. 内閣府への各種書類の提出
16. 登記関係に関わる事項の一切
17. その他、財政に関わる一切の業務

JCI福島は2023年7月にて創立60周年を迎えます。

事務局としては、理事長のセクレタリーをはじめ、各種会議の準備や出欠の確認、資料の配信、わんぱく相撲やとうろう流し花火大会の実施を行ってまいります。財政局としては、事業の公益性の確保と予算の健全性をはかるべく財政審査会議を行ってまいります。渉外としては、新たに策定された賛助会員の皆様へのフォロー拡大を進めていき、より魅力ある会としてまいります。

第60代理事長菅野 太喜君や、三役、理事並びにメンバーの皆様の下支えとして事務局・財政局一丸となり会の円滑な運営の一助となるように年間動いてまいります。

賛助会員紹介

- ゴールド会員
 - ・株式会社テレビユー福島
 - ・福島テレビ株式会社
- シルバー会員
 - ・株式会社ENEOSウイング東北支社



「福島テレビはおかげさまで2023年4月に開局60周年を迎えます。」

会員拡大のお願い

御先輩方には日頃よりのご協力を賜り感謝申し上げます。本年度も会員の拡大の為皆様からの情報のご提供やご紹介をいただきたくお願い申し上げます。本来、会員の拡大は組織の存続や運営のためにするものではありません。明るい豊かな社会を築くために行うべきものです。

これからの地域の未来を本気で考え、一緒に行動できる同志をみつけることが本当の会員拡大運動と考えております。そして、入会者を一人前に育てて初めて拡大といえます。人数を増やすだけの拡大だと中身が伴わず、入会してもそれ以上の退会者が出たら拡大の意味を成しません。会の目指す方向性を理解し、一人ひとりが目的をもって活動をする中で、自身の成長に寄与することのできる仕組みづくりが拡大成功への道につながるのです。拡大運動を通じて人材の育成が可能となり、魅力的な人材を育成することで自ずと拡大へつながるという形で活動してまいります。

福島青年会議所 SNS公式アカウント ▶

本年度は各SNSに力を入れていく予定です。皆様のフォロー、よろしくお願いいたします。



JC News

公益社団法人
福島青年会議所

福島青年会議所新聞

Vol.511

発行責任者：菅野 太喜
 編集責任者：今野 恵介
 発行日：2023年2月

第60代理事長挨拶



第60代理事長

菅野 太喜

福島青年会議所は本年度で発足から60周年を迎えます。諸先輩方がふるさとの発展に寄与すべく連綿と紡いでこられたその歴史には、その時代それぞれの特徴が編み込まれており、全ての事柄が複雑に絡み合いまるで一本の綱のように太く、強く、しなやかに縊（よ）り合わされています。昨今の社会情勢は様々な難題を抱えておりますが、私たち現役メンバーは驚異的なスピードでその変化に適応し、今まさに進化の途上にあります。この時代に即し、青年会議所として地域社会に資する事は何か、青年経済人として目指す姿とは何か、為すべき事は何か。60周年を迎える私たちはその命題に正面から取り組み、全会員が一丸となって運動を展開してまいります。

今日までの謝意と今後への意気込みを込めて、今年のスローガンを「前へ! ~感謝を込めて新しい一歩を~」と定めさせていただきました。皆様に於かれましては、どんな環境においても時代の変化を楽しみ、チャンスと捉えて歩みを進める私たち現役メンバーへのご指導ご鞭撻賜りますよう、お願い申し上げます。

本年は3つの通常委員会に加え、60周年実行委員会を設置し合計4つの委員会で運動を展開してまいります。詳細は次頁以降に記載させていただきますが、対外的な事業が盛りだくさんとなっておりますので、ぜひご家族や会社の皆様とご参加いただき、若き獅子たちの奮迅の活躍をご覧いただければ幸いです。

最後となりますが、歴史を紡いでこられた諸先輩方、そして当青年会議所の運動にご理解、ご協力を頂いております賛助会員の企業様、皆様の益々のご隆盛を祈願し、私からのご挨拶とさせていただきます。

公益社団法人福島青年会議所 2023年度年間スケジュール

※予定を掲載しています。諸般の事情により事業開催時期が前後する可能性がございます。

1月	19日 京都会議(19~22日) 31日 例会並びにOB・現役合同新年会	7月	1日 福島ブロック大会(1~2日) 22日 サマーコンファレンス(22~23日) 25日 例会 29日 60周年記念式典・祝賀会
2月	11日 第9回晩まり福男福女競走 28日 例会	8月	4日 第1回福島わらじまつり鼓笛パレード 5日 第2回福島わらじ綱引 17日 第40回とうろう流し花火大会 29日 例会
3月	28日 例会	9月	2日 東北青年フォーラム(2~3日) 16日 郷土愛を育む人財育成事業 26日 例会
4月	25日 例会 30日 第11回信夫山パークランニングレース 30日 植樹事業	10月	1日 60周年記念事業 6日 全国大会(6~8日) 24日 例会
5月	13日 第35回わんぱく相撲大会県北場所 18日 南投国際青年商會訪問(18~20日) 30日 例会	11月	28日 例会・出向者報告会
6月	27日 例会 防災・減災事業(未定)	12月	19日 例会並びに卒業式

本年度(2023年度)は例会時の「理事長挨拶」をYouTubeで配信いたします。以下のQRコードから福島青年会議所公式YouTubeチャンネルよりご視聴ください。



YouTube
PLEASE ACCESS!

2023年度委員会紹介

ふくしまの元気委員会



副理事長 井上 健太郎
 委員長 加納 総一郎
 副委員長 並河 暢彦
 副委員長 庄 宝旺
 委員 高子 芳典 菅野 和記
 秋元 綜弥 五十嵐 拓道
 安江 成吾 日下部 皐月
 橋本 長武 丹治 秋人

事業内容

1. パークランニングレース及び植樹事業の実施
2. 郷土愛を育む人財育成事業の実施
3. 防災、減災にかかる事業の実施
4. ブロック大会（会議）引率
5. 全国大会（会議）引率
6. 2月例会の設営・運営
7. 入会者2名の達成
8. 報告書の作成

活気溢れるまちへ戻れるように、市民と協力していくことで、ふくしまに元気と笑顔を届けます。当委員会はメンバー同士で協力しながら盛り上げて、たくさんの人々にふくしまで楽しむチャンスを掴み取る手助けをします。そして、青少年はふくしまの未来を担う大切な存在であるため、世代間交流を通して、郷土愛を醸成します。JCI福島としてまちの活性化に関わることで、ふくしまが元気になるように頑張っています。

委員会スローガン
**楽しむチャンスを
 掴み取れ**

まつり本気委員会



副理事長 太田 憲一
 委員長 阿部 知浩
 副委員長 高橋 祐人
 副委員長 谷口 隆治
 委員 佐藤 海華 大塚 雅文
 佐々木 健太 竹田 悠
 曳地 優介 斎藤 なつみ
 高橋 城司 渡邊 直樹
 高橋 智大 小原 学
 藤田 彩里沙 赤間 亮介

事業内容

1. ふくしまの伝統文化を伝え故郷の魅力を発信する事業の実施
2. 福島わらじまつりの発展に寄与する事業の実施
3. 福島わらじまつりへの参画、並びに関係団体・組織との連携
4. 東北青年フォーラム引率
5. 6月例会の設営・運営
6. 入会者2名の達成
7. 報告書の作成

新型コロナウイルス感染症が確認されて以来、社会の在り方は大きく変化してきました。このままでは、先人達が紡いできた伝統や未来への希望は時代の変遷と共に消えてしまいかねません。当委員会では、ふくしまの伝統文化について、地域を巻き込んで次代へと継承していくため、歴史や故郷の魅力を発信する事業を展開し、住民の伝統文化に対する関心向上につなげます。また、福島わらじまつりにおいては、一層の発展に寄与するため、子どもから大人までの幅広い年代が参加・観覧できる事業を実施し、裾野の拡大と更なるまつりの盛り上がりを実現します。今こそわれわれは、地域とそこに住む人々の弥栄（いやさか）を願う気持ちを熱く滾（たぎ）らせ、明るい豊かな社会の実現にむけた事業を展開してまいります。

委員会スローガン
TAGGIRE!!

組織力強化委員会



副理事長 高野 智宏
 委員長 今野 恵介
 副委員長 竹内 潤
 副委員長 根本 康一
 委員 新田 泰大 半澤 明大
 須賀 さとみ 渡邊 翔太
 廣野 隆 藤原 秀信
 玉井 翔也 菊地 亮太
 相馬 祥乃 松崎 義将

事業内容

1. 総務に関わる業務及び諸会議の議事録作成
2. JCI福島に関する広報活動
3. 会員の学びとなる例会の設営・運営
 新年会・卒業式の開催
4. 会員拡大運動の実施・統括
5. 新入会員へ向けた入会セミナーの実施
6. サマーコンファレンス引率
7. 対外向け広報資料の作成と送付
8. 報告書の作成

JCI福島が地域に必要とされ貢献できる持続的な団体になるためにJCIの理念・運動を効果的に対内外に発信するとともに、学びと成長の機会を創出することで、新たな共感の輪を広げ組織価値を高めてまいります。

また、JCI福島の未来を担う新入会員が個々の能力を発揮し輝くことで人が人を呼ぶような組織となるよう、入会後のフォローアップを含めた人財育成を行います。メンバー同士の密で円滑なコミュニケーション、理念や知識を共有し対等に意見を述べられる場を設けることを運営の方針として委員会の活動を行います。

委員会スローガン
**「百聞は一行にしかず」
 ～まずは自分の目で見て行動しよう～**

60周年実行委員会



実行委員長 大和田 諒
 記念式典担当理事 菊池 翔太
 記念事業担当理事 清水 達馬
 記念誌担当理事 金子 真樹

事業内容

1. 60周年記念式典の実施
2. 60周年記念事業の実施
3. 60周年記念誌の作成
4. 60周年記念に関わる一切の取りまとめ及び実施
5. 各種関係団体並びにJCI南投への渉外対応
6. 各地周年事業の引率・参加のとりまとめ
7. 報告書の作成

JCI福島は、2023年7月で創立から60年目を迎えます。60年の歴史と伝統は、諸先輩方をはじめ、関係諸団体の皆様、地域の皆様と非常に多くの支えがあって、今日に至ることができました。

60年という節目に、その感謝の想いを伝え、次なる65周年へ繋げるべく運動、活動を展開してまいります。

委員会スローガン

感恩報謝

～JCI福島 創立60周年～



JC NEWS

公益社団法人
福島青年会議所

発行責任者

菅野 太喜

編集責任者

今野 恵介

発行日

2023.10

Vol.512



菅野 太喜 公益社団法人 福島青年会議所 第60代理事長

日頃より私たちの運動にご理解ご協力をいただき、誠にありがとうございます。創立60年の節目を迎えることができた本年も、早いもので秋分にさしかかり次年度へのバトンゾーンとなりました。今こうして予定者段階からの約1年間を振り返り、青年会議所には「人は城、人は石垣」という言葉がよく当てはまると実感しております。

本年は60周年実行委員会を設置し、通常の委員会を3つに凝縮して運動を展開してまいりました。コロナ禍が明けつつある中、再始動する内容も含め、全体の事業数は増加傾向にありました。例年とは少し異なる状況の中、無事に歩みを進められているのも、ひとえに皆様からの多大なるご支援と、あたたかいご指導ご鞭撻の賜物です。改めて、深く感謝を申し上げます。

本年度の理事は若手からの登用が多く、とてもフレッシュな顔ぶれでスタートを切りました。皆様に見守られ委員会運営を完遂した彼らは、自信が付き精悍な人財へと成長しつつあります。時には迷い、壁にぶつかりながらもそれを乗り越えて蓄えた知恵と知識が、次年度以降の福島青年会議所を形成する「城」「石垣」そのものになってくれると確信しております。

青年会議所として地域に資する人財を輩出し続けるために、私たちは常に新しい仲間を探し求めております。皆様の周りに元気な青年経済人がいらっしやいましたら、是非ともお声がけ頂きたく存じます。地域貢献を通じてチームビルディングを学び、明るい豊かな社会へ向かって「前へ！」と進んで行けますよう、重ねてお願い申し上げます。

末筆とはなりますが、これまでの歴史を紡いでこられた諸先輩方と、平素より当青年会議所にご理解ご支援をいただいております賛助会員の企業様、皆様の益々のご清栄をお祈り申し上げます。私からのご挨拶とさせていただきます。



YouTube



Instagram



Facebook



ご意見・ご感想のお願い



広報誌資料について、ご意見ご感想がございましたらお聞かせ頂けると幸いです。こちらのQRコードからご入力をお願いいたします。

大和田 諒

60周年実行委員会委員長

福島青年会議所は、1963年7月27日に開催された設立総会にて誕生し、本年で60年目の節目を迎えることができました。長きにわたった活動の歴史を紐解けば、地域の発展を目的とした運動の継続に尽力した諸先輩方の弛まぬ努力、そして関係諸団体、市民の皆さま方の支えがあります。

創始の想いを絶やすことなく後世に伝えるべく、60周年の節目を好機と捉え、記念式典・祝賀会、記念事業の開催、記念誌の発行を予定しております。

結びに、地域にとって頼られ求められる存在として、前進し続けることこそが、恩に報いるものと考え、未来に向けて運動を絶やさず継続していくことをここにお誓い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



菊池 翔太

記念式典担当理事

創立60周年という記念すべき節目を迎えるに当たり、総勢約320名の参加者をお迎えし、無事、記念式典並びに祝賀会を盛会に終えることができました。当日はご参加が叶わなかった関係者の皆様からも多数のお祝いのお言葉を賜り、当会議所の歴史を連綿と紡いでこられた先輩諸氏と日頃よりご支援頂いております関係者各位への感謝の気持ちと会員同士の絆を深めることができました。

たくさんのお祝いを賜りました皆様に加え、長期間の準備にご協力頂きました企業各位へも、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



清水 達馬

記念事業担当理事

創立60周年記念事業を迎えるにあたり沢山の苦悩や葛藤がありました。ですが、沢山の方の笑顔や街の活気ある様子を目の当たりにして「福島青年会議所に在籍していて良かった」と心から感じる事が出来ました。貴重な経験を頂けた素晴らしい一年になりました。

「福島くいだおれ音楽祭」を盛大に開催することが出来たのも60年という歴史を紡いでくださったOB・OGの皆さま、また日頃より当会議所の活動、運動にご理解を示して下さる賛助会員の皆さまのおかげだと心より感謝の気持ちでいっぱいです。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

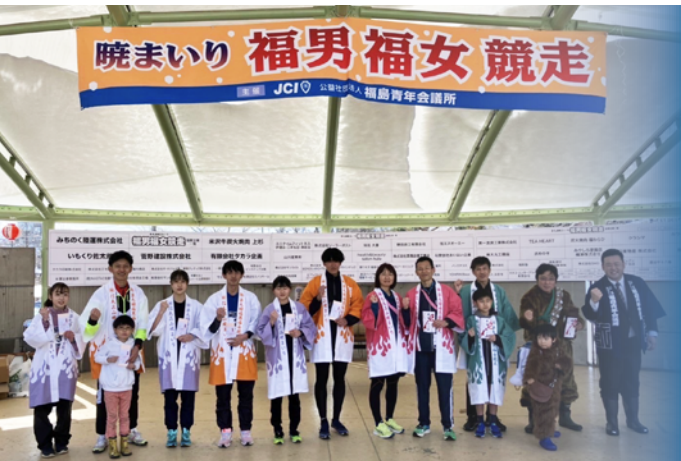


金子 真樹

記念誌担当理事

創立60周年を記念して、現在周年記念誌の作成を進めております。歴代理事長をはじめとするOB・OGの皆様、賛助会員の皆様のご支援ご助力のおかげでございませう。当青年会議所は、その年度ごとに『ふくしま』に必要なものが何かを考え青年会議所だからこそできる手法によって実行して参りました。50代から60代理事長の歴代理事長座談会をはじめ、これまでの活動の足跡が次の世代の道しるべとなるよう編纂しております。12月中旬から下旬頃に皆様のお手元に届くかと存じます。その際は是非ご一読頂きますと幸いです。





第9回暁まもり福男福女競走

2023.02.11 [SAT]

3年ぶりの暁まもり福男福女競走でしたが、267人の競走参加者に、1人のけが人を出すこともなく、無事に終わることができました。暁まもり自体の中止により、行政主導だった許認可関係を福島青年会議所単独で全て申請する必要が生まれ、例年以上に厳しい運営を迫られました。感染症の再拡大や前日の大雪も重なり、競走参加者数は目標の700人を大きく下回りましたが、逆境に負けずに開催できたことは当LOMの大きな財産になったと確信しています。

トルコ・シリア大地震災害支援金 募金活動

2023.03.24 [FRI]

トルコ・シリア大地震の発災を受け、トルコ・シリア大地震災害支援金の募金活動を行いました。トルコ国内には35青年会議所が存在しており、その1つ、ハタイ青年会議所(JCI Hatay)は甚大な被害を受けており、当時は寒さも非常に厳しい状況が続いているとの報告がありました。皆様の心温まるご支援の結果、合計金額165,630円集まりました。集まりました支援金は日本青年会議所を通し、トルコ青年会議所へ送金いたしました。



民家園春まつり わらじ作り体験教室

2023.04.09 [SUN]

福島市民家園は昔ながらの生活様式や建物に触れ、学ぶことができる観光スポットとなっており、こちらでわらじ作り体験教室を行いました。日本一の大わらじで知られる福島の代表的な伝統文化であるわらじまつりにむけて、今年1年、健脚の願いを込めて来場者の方にわらじを作っていただきました。実際にわらじを作る際に使われた道具なども展示されており、福島の伝統文化を伝承できる素晴らしい機会でした。

わらじ音頭鼓笛音源 配布事業

2023.04.10 [MON]

福島わらじまつりを継続的に発展させるためには、若年層の巻き込みが不可欠だ一。われわれはこのような観点から、わらじ音頭をより親しみやすい鼓笛調に編曲し、九つの楽器のパートごとに起こした譜面と音源を子どもたちに配布する事業を展開しました。当初見込んでいたわらじまつり本番での鼓笛パレードについては、参加団体の確保が難航し見送らざるを得ませんでした。まつりの発展に向けた新たな足跡を残すことができました。





伊達と相馬の境の桜

2023.04.29[SAT]

4月29日（土）に相馬青年会議所が主催となった伊達と相馬の境の桜が開催されました。1971年に福島青年会議所と相馬青年会議所の永遠の友好の絆として行われた桜の苗木記念植樹から始まったこの事業は今年で52年を迎えます。1985年には福島、相馬、だて（保原）の3LOM合同事業となり、毎年3LOMの交流を深めています。

今年も境の桜でセレモニーを行った後にボウリングを3LOMのチーム戦で行い、交流を深めることができました。

第11回 信夫山パークランニングレース

2023.04.30[SUN]

開催当日は約900名の県内外の参加者が信夫山を駆け巡りました。本事業は、参加者の皆様が信夫山の持つ歴史、伝統、自然の魅力を通じて福島の素晴らしさを感じてもらふことや、福島のソーシャルストックである信夫山の観光資源としての価値を高めるという目的で開催いたしました。参加者アンケートでは、9割以上の方が「信夫山の魅力を感じ、レースを楽しんだ」と回答してくださいました。ご支援頂きました諸先輩方や賛助会員企業の皆様に深く御礼申し上げます。



第35回 わんぱく相撲福島県北場所

2023.05.07 [SUN]

学法福島高等学校の屋内相撲場にて、「第35回 わんぱく相撲福島県北場所」を開催いたしました。今回は小学4年生から6年生までの6名が参加しました。その後、県北場所からは6年生の簗野 蒼汰君、5年生の石本 叶汰君、4年生の渡邊 功真君、宍戸 佑豪君がブロック大会に出場し、石本君、渡邊君、宍戸君が全国大会出場を決めました。7月30日に開催された全国大会では、渡邊 功真君がベスト16と大健闘しました。今後も、相撲を通じて心豊かな青少年の育成を推進するため、事業を展開してまいります。

南投国際青年商會訪問

2023.05.18 [THU] - 2023.05.20 [SAT]

5月18日から20日にかけて、姉妹JCである南投国際青年商會に60周年記念式典の「招待状」と、友好品として「硯箱」をお届けするために訪問いたしました。

当日は何会長をはじめとする多くのメンバーにお出迎えいただき、心温まるおもてなしを受けました。南投の皆様のおもてなしに触れ、私たちの60周年記念式典の際には感謝の気持ちを表すため精一杯の歓迎を致しました。今後もこの素晴らしい絆を永きに渡って繋いでまいります。





災害対応とボランティア活動の心得！

2023.06.24 [SAT]

福島青年会議所会員の防災減災の意識を高めるべく、本事業を開催しました。講演会では「福島市役所危機管理室防災専門官 長谷川仁氏」にご講演いただき、地域の防災力を高めることの必要性や、ボランティアセンターからの要請に対する注意点等を学びました。その後のグループワークでは、福島市社会福祉協議会様や川俣町社会福祉協議会様と各班に分かれ、避難所運営ゲーム(HUG)を実施し、避難所運営の方法を学びました。今後も各種災害に対応できるよう精進していきたいと考えております。

福島わらじまつり（福島わらじ綱引き）

2023.08.04 [FRI] - 2023.08.06 [SUN]

昨年度、3年ぶりに開催された福島わらじまつり。その中で福島青年会議所として新しく興した事業が福島わらじ綱引きでした。2回目の開催となった今年度は、新たに青年4団体綱引きをエキシビジョンとして行うことで各青年団体を巻き込み、会場全体を大いに盛り上げることができました。わらじまつりとしても来年度は55回目の節目となりますが、そこへと繋がるような、コロナ前の活気を取り戻した盛況なまつりとなったと確信しています。



第40回 福島とうろう流し花火大会

2023.08.17 [THU]

8月17日（木）に福島とうろう流し花火大会が福島とうろう流し発興会主催、福島青年会議所が共催で行われました。準備段階から諸先輩方にご協力を頂きまして誠にありがとうございました。当日は朝から準備を行い、我々も警備配置につき、スムーズに開催かと思われましたが、突然のゲリラ豪雨。綺麗に点灯された灯籠の蠟燭はほとんど消え去り、花火の開催も危ぶまれました。一瞬、小雨模様となった際に花火開始。土砂降りの中、2,200発の花火と雷の饗宴となりました。土砂降りの雨が降る中、とうろうに込めた弔いの灯を絶やさぬよう必死に傘を差し見守る方が印象的でした。

会員拡大運動 ご協力の御礼

諸先輩方には日頃よりのご協力を賜り感謝申し上げます。本年度も会員拡大の為、皆様からの情報のご提供やご紹介をいただきありがとうございました。一緒に行動できる同志を見つけ、会の目指す方向性を理解してもらい、地域のこれからの未来を本気で考えること。そして、一人ひとりが目的をもって活動し自身の成長に寄与することのできる組織づくりをしまりました。これからも魅力的な人財を育成し、事業を対内外に発信することで福島青年会議所の魅力を伝え、自ずと拡大へ繋がるような活動・運動をしまります。今後とも変わらずのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

委員長挨拶



加納 総一郎

ふくしまの元気委員会
委員長

ふくしまの元気委員会は、「楽しむチャンスを掴み取れ」というスローガンのもと活動してまいりました。2月例会の設営、第11回信夫山パークランニングレースと植樹式、防災・減災にかかる事業を行いました。2月例会では第27代理事長の菅野日出喜先輩にお越し頂きました。第11回信夫山パークランニングレースは、全国各地から約900名の登録があり、植樹式では、ソメイヨシノの植樹を行いました。防災・減災にかかる事業では、講演会やグループワーク通じて連携を深めることで、災害が発生した際には、ボランティアスタッフとして協力体制を取ることができるようになりました。準備等で大変な時もありましたが、ふくしまの元気委員会委員長として、とても学びのある一年間となったことや頼れる仲間ができたこと、当委員会メンバーには感謝の気持ちでいっぱいです。一年間ありがとうございました。



阿部 知浩

まつり本気委員会
委員長

まつり本気委員会は本年度、コロナ禍前は当たり前前に展開していた活動、運動の再開と発展への基礎造りを目標に据え、地域を巻き込み共に前進するべく、「Tagire!!」をスローガンに掲げました。3年ぶりの実施となった暁まiori福男福女競走、4年ぶりに完全開催が実現した福島わらじまつりにおいては、LOMの歴史を脈々と継いでこられた先輩方のお力添えと励ましにより、様々な困難がありながらも成功の下終了することができました。改めて御礼申し上げます。また、わらじ音頭を鼓笛用に編曲して譜面に起こし、音源と共に学校へ配布する事業を展開しました。子どもたちと福島わらじまつりの接点を作り、伝統文化を継承していく新たな試みになったと自負しております。先輩方から受け継いだ伝統を絶やさずに、未来へ向けて種をまきました。メンバー一同が滾りに滾り、心から楽しかったと言える1年でした。



今野 恵介

組織力強化委員会
委員長

組織力強化委員会は、『百聞は一行にしかず～まずは自分の目で見て行動しよう～』をスローガンに掲げ1年間活動してまいりました。会員の学びとなる例会の設営として、ハラスメントや、地域魅力の醸成と朝ドラ誘致の舞台裏と題した講演会、メタバース進化論と題しメタバース空間からVTuberの講師とZoomで繋いだ今までにない講演会、そしてChatGPTの可能性と業務活用術の講演会など、会員にとって新たな気づきと学びを得る機会ができました。さらに対内外に活動運動を周知するために、毎月の理事長挨拶や各事業をSNSなどで発信いたしました。また、拡大運動をしつつ入会後のフォローアップを含めた人財育成を行ってまいりました。福島青年会議所の未来を担う新入会員が個々の能力を発揮し輝くことで人を呼ぶような組織を目指してまいります。皆様のご協力ありがとうございました。

賛助 会員

ゴールド会員



シルバー会員



おかげさまで60周年



60周年の、その先へ。
「もっと!ぐっと!」を合言葉に、
福テレは進みます。

ニュースも天気も“深掘り”



News
スタふくしま

毎週月一金 夕方6時15分

WITH you TUF